

「防災士ネットワークさばえと議会との語る会」を開催しました

令和5年2月23日(木・祝)に、防災士ネットワークさばえの会員14名と議員10名が参加し、意見交換会を開催しました。

意見交換会では、「鯖江市災害時サポートガイド」が刷新されたことで、自分たちが住む各町内においても、防災マップを作成し、防災意識の向上を図ることが重要であることや、個別避難計画の策定には、課題があるなどの意見が出されました。



議会との語る会の様子

防災士ネットワークさばえ

「防災士ネットワークさばえ」は、地域防災の一翼を担うことを目的として、「防災士」の資格を持つ会員によって平成27年に設立。地域住民に対する防災の備えや避難の大切さなどの防災学習、市内小中学校の児童・生徒への防災教育の普及など、様々な啓発活動を行っています。また、設立当時から防災出前講座や防災マップづくりなどの取組を、提案型市民主役事業として、市民の要望に対し、きめ細かく対応して実施しています。

鯖江市議会では、語る会でいただきましたご意見・ご要望等を、今後の議会活動や政策提言につなげてまいります。



公共交通整備特別委員会 現場見学

【見学先】北陸新幹線「越前たけふ駅」・「敦賀駅」

【日時】令和5年4月24日(月)

鯖江市では、市の「顔」である鯖江駅の周辺整備を計画しており、利便性の向上や駅を拠点としたまちづくりの推進、地域の活性化を目指しています。今回は、2024年春開業に向けて準備が進められている県内新幹線駅を見学し、その整備内容や特色などについて学びました。



越前たけふ駅にて

北陸新幹線「越前たけふ駅」

コンセプトは「伝統・文化を未来につなぐシンボルとしての駅」で、外観はコウノトリをモチーフとし、内部には越前和紙や越前漆器など丹南の伝統工芸の技法がちりばめられている。また、道の駅が隣接し、物販や飲食店のほかに多目的広場などが整備されており、高速道路などの利用者や地元住民にも広く活用できる施設となっている。

北陸新幹線「敦賀駅」

コンセプトは「空にうかぶ～自然に囲まれ、港を望む駅～」で、北前船をイメージしたデザインを取り入れている。駅前には、ホテル・飲食店・子育て支援施設などを含めた官民連携施設がオープンし、交流やにぎわいを創出している。



敦賀駅にて